

彩人伝

戦争の悲惨さ後世に

1945年4月、1人の特攻隊員が別れ際に流した涙を今も覚えている。22歳の隊員は「世話になつたな。桶川に戻つたら、みんなによろしく伝えてくれ」と話し、山口県の小月飛行場を飛び立つた。

約10日後、沖縄の海に散った。中丸村（現在の北本市）出身。15歳で熊谷陸軍飛行学校桶川分教場の整備員となり、練習機の整備に明け暮れた。

1926年生まれ。伯父の勧めで飛行機の整備員となり、41年から終戦まで熊谷陸軍飛行学校桶川分教場と廃止後の特攻隊基地で働いた。現在は県内の学校などで講演をしている。

NPO法人旧陸軍桶川飛行学校を語り継ぐ会

解説員 柳井 政徳さん 88(北本市)



の訓練基地となつた。隊員に同行した小月飛行場で、ベニヤ板で造られた戦闘機をいく

つも見て、日本は勝てるのかと初めて不安になつたといふ。基地で出会つた隊員の中

には出発が近づくにつれ、「思存分商売がしたかった」「親孝行がしたかった」と本音を打ち明ける人もいた。

戦後は会社員となつたが、隊員の無念さを思うと涙が止まらなかつた。「どれほど悔しく、さみしかつただろう。

そう考へると、生き残つた自分を責める思いもある」。体験を語ることは避けていた。

分教場跡は桶川市営住宅となつたが、2007年に居住者がいなくなり、遺構を保全しようという活動が始まつた。「当時を知る自分が口をつぐんでいては、戦争の悲惨さは語り継げない」と決心した。NPO法人「旧陸軍桶川飛行学校を語り継ぐ会」の解

くなり、最近は語り部としての役割を意識するようになつた。静かだが、強い口調で訴えることにしている。

「戦争が起きれば、戦地に行かされるのは若者だ。國のため若者の自由が奪われる時代に逆戻りさせてはならない」と。(斎藤秀)

記者から 特攻隊員の話になると、涙ながらに語った。同世代の若者たちは戦死したが、生き残ってしまったという思いを抱えていることに胸が苦しくなつた。柳井さんのような戦争体験者は減り続ける。彼らの記憶を残していくことの大切さを感じた。

DV相談センター11市のみ

被害者負担軽減 県が設置呼びかけ

配偶者や交際相手から受けた暴力(DV)に対応する「配偶者暴力相談支援センター」の設置が県内で11

被害者の負担が軽減されるなどのメリットがあり、県はセンターは警察や病院など

復を考えると、職員の安全確保に不安がある」、「被害相談が少なく、優先順位がそれほど高くない」とい

人OBが児童指導



ティンクの手本を見せる篠塚さん

サケの遡上。ピーク

利根大堰

行田市と群馬県千代田町の利根川にかかる利根大堰

で、サケの遡上がピークを迎えている。

サケは孵化から約4年で

ご葬儀は 生涯者葬儀支援センター
光彩セレモ 0120-11-7634

(第3種郵便物認可)

高校生に語り掛ける柳井政徳さん(右) —伊奈町学園4丁目の
県立伊奈学園総合高校



「桶川飛行学校」講演会
（桶川飛行学校）について語る場が、同学校跡地や市役所を飛び出し、広く多くの人たちの間で話されるようになっている。同学校跡地に残る建物の整備や運営方法について議論中だが、「桶川飛行学校の記憶の継承」という点では着実に歩みを進めている。

（勇有花子）

「桶川飛行学校」講演会

「桶川飛行学校のこと少しでも知っている人はいませんか」。7日の伊奈町の県立伊奈学園総合高校で開催された講演会を前に、教師たちへ質問を投げ掛ける

講演会は、1月に修学旅行で訪れる鹿児島県「知覧特攻和平会館」見学会に先駆け、同校で企画。「テレビなどでほんと生の声を」

と、誰からも手が挙がらなかつた。柳井さんの語る、自らが見てきた特攻隊の若い青年たちの姿の話に耳を傾ける生徒たち。メモを取りながら話を聞いていた白石夏海さん（17）は「まるで昨日のことのように話をする柳井さんの姿を見て、戦争は

「桶川飛行学校のこと少しでも知っている人はいませんか」。7日の伊奈町の県立伊奈学園総合高校で開催された講演会を前に、教師たちへ質問を投げ掛け

「身近に感じた戦争」

桶川市川田谷の旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場（桶川飛行学校）について語る場が、同学校跡地や市役所を飛び出し、広く多くの人たちの間で話されるようになっている。同学校跡地に残る建物の整備や運営方法について議論中だが、「桶川飛行学校の記憶の継承」という点では着実に歩みを進めている。

（勇有花子）

と講師に、北本市在住の桶川飛行学校で元整備員を務めた柳井政徳さん（89）を招いた。

柳井さんの語る、自らが見てきた特攻隊の若い青年たちの姿の話に耳を傾ける生徒たち。メモを取りながら話を聞いていた白石夏海さん（17）は「まるで昨日のことのように話をする柳井さんの姿を見て、戦争は

「私の話を聞いた人全員

に全てを理解してはもらえない」と柳井さん。それでも「多くの人に桶川

飛行学校のことを認知してもらえるだけでも意味があると思うんです」と力を込めた。

伊奈学園総合高校元整備員招き記憶継承

肝炎、C型肝炎、脂肪肝、肝がんにならないために」とをテーマに県肝疾患診療連携拠点病院等連絡協議会、ブリストル・マイヤーズ共催、県医師会、埼玉新聞社後援の市民公開講座が5日、さいたま市浦和区の県民健康センターで開かれ、約200人が参加した。埼玉医科大学消化器内科教授、自治

くみや脂肪肝、肝炎、肝がんなどな病気などを分かりやすく説明し、肝炎の新規感染予防や保健所で無料の肝炎検査（予約制）が受けられるなどの情報も織り交ぜた。検診をまず受けてもらい、早期発見することがとても重要。過去に治療を受けた人も定期的に検診を受ける。あきらめないで治療することが大事」と促した。

講演終了後の質疑応答も熱心に行われた。（山崎正穂）

川口・奥ノ木市長

川口市の奥ノ木信夫市長は8日、国土交通省の災害対策支援船「あらかわ号」（27トン、41人乗り）に乗船、水上から荒川を視察した。同市長は「荒川の水は意外にきれいだ。私の子ども時代に戻ったようだ。市民にも荒川の水辺空間を楽しんでもらえるように努めたい」と語った。

荒川下流河川事務所の里村真吾所長（38）が川の様相を説明。京浜東北線の鉄橋下では「線路が低いため堤防がくびれてい

る。あそこは増水時に土

史民俗資料館で、桶川飛行学校の今後を考えるシンポジウムが開催された。参加者は市内外から集まつた桶川飛行学校に興味のある約160人。会場内で話を聞くことができない参加者たちもいた。

大手-MANKEI 90歳
大正の少年の夢、筑波一泊三日で日本を駆けめぐらす。
氷川の歴史 トークショー
（左）高島屋製とう真鍮のフックを手に話す氷川丸船長の金谷範夫さん（左）と氷川神社権高宮の東角井真臣さん（さいたま市大宮区の高島屋大宮店）

旧陸軍建物群 保全へ

桶川市が基金



旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場の兵舎跡（桶川市川田谷で）

旧陸軍の建物群が残る桶川市川田谷の「旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場跡」の保全に向け、市は10月から基金の受け付けを始める。集まつた金を建物の復元や、立ち寄り型の観光スポットにするための費用に充て、戦争の悲惨さを語り継ぐ拠点にすることを検討している。4日には保全と活用をテーマにしたシンポジウムを初めて開く。

桶川分教場は1937年に開校。45年2月以降は特攻隊の訓練基地として使われ、廃止までに約1500人1600人の航空兵が学んだ。荒川沿いに約9500平方㍍の敷地が広がり、今も兵舎や弾薬庫、守衛所などが残る。

戦後は引き揚げ者らが暮らす市営住宅となり、最も多かった56年頃には64世帯、約300人が暮らしたが、老朽化に伴い2007年に居住者がいなくなつた。市は建物を取り壊し、土地を国に返還するつもりだったが、遺構の保全を求める1万4000人分の署名が市と県に出され、市は10年1月に土地を購入した。

現在は分教場の元飛行機整備員や市民有志でつくるNPO法人「旧陸軍桶川飛行学校を語り継ぐ会」が週末や祝日に見学者を案内している。市などが7月に公表した整備計画案では、建物の全

戦争の悲惨さ 後世へ

年に開校。45年2月以降は特攻隊の訓練基地として使われ、廃止までに約1500人1600人の航空兵が学んだ。荒川沿いに約9500平方㍍の敷地が広がり、今も兵舎や弾薬庫、守衛所などが残る。

戦後は引き揚げ者らが暮らす市営住宅となり、最も多かった56年頃には64世帯、約300人が暮らしたが、老朽化に伴い2007年に居住者がいなくなつた。市は建物を取り壊し、土地を国に返還するつもりだったが、遺構の保全を求める1万4000人分の署名が市と県に出され、市は10年1月に土地を購入した。

現在は分教場の元飛行機整備員や市民有志でつくるNPO法人「旧陸軍桶川飛行学校を語り継ぐ会」が週末や祝日に見学者を案内している。市などが7月に公表した整備計画案では、建物の全

てまたは一部を解体・復元し、新たに解説板を設けるなどして平和を考える場として活用する。近くには道の駅を建設する予定で、観光拠点となるよう眺望地点も整備する。13年度は管理・修繕などに約180万円がかかったが、今後は費用の一部を基金で賄う。

語り継ぐ会の鈴木義宏事務局長(62)は「戦争の歴史を正確に伝えるためには建物の補修にとどめ、雰囲気を残すべきだ」という考え方もある。貴重な遺構を有效地に活用するためにも、市はもう少し研究してほしい」と注文をつける。

4日のシンポジウムは語り継ぐ会と市が主催し、午後1時半から桶川市歴史民俗資料館で行う。文化財の保護などに詳しい戦争遺跡保存全国ネットワーク代表の十菱駿武・山梨学院大客員教授が、全国の戦争遺構の調査状況について講演するほか、建築学や地域活性化の専門家らがパネルディスカッションする。無料。問い合わせは、市自治文化課(048・786・3211)。

訓練中死亡

繰り返

県警機動隊のプールで2012年6月、訓練中の隊員の巡査（当時26歳）が死亡した事故で、さいたま地検は30日、川口市芝、機動隊巡回渡辺哲範容疑者(31)を業務上過失致死罪でさいたま地裁に起訴した。

起訴状によると、渡辺容疑者は12年6月29日、水深約3㍍の水槽で、巡査の体を背後からつかんで水中に沈める訓練を繰り返すなどを溺れさせ、死亡させたとされる。

渡辺容疑者と同時に書類

強盗傷害容疑

17歳を再逮捕

川口署は30日、川口市の無職少年(17)を強盗傷害容疑で再逮捕したと発表した。発表によると、少年は5月25日午後10時55分頃、川口市元郷のマンション敷地内で、歩いていた住人の女性(21)を引きずり倒してバ